

それでは、おはようございます。第二礼拝へようこそ。第一礼拝は、ハワイ時間の午前9時からライブ配信する「聖書預言・アップデート」です。第二礼拝は、聖書の御言葉を一節一節の学んでいきます。聖書を、書ごと、章ごと、節ごとに学びます。今日は、「テモテへの手紙第二」です。先週、3章を学び終わりました。今日は4章で、御言葉箇所は1節から5節までです。未だの方は、その箇所を開いて下さい。今日の説教に入る前に、最新情報をお伝えしたいと思います。先週発表した、新サイト JDFarag.org の、同時ライブ配信についてです。これは、特にオンラインチャーチのために特に、「預言・アップデート」に関連して知っておいていただきたいことです。先週の日曜日から、今朝もそうでしたが、YouTube でも Facebook でも 預言・アップデートのライブ配信開始しました。しかし、YouTube も Facebook でも、ライブ発信は一旦終了し、ツイッターでも一旦終了するかもしれません。それらのプラットフォームでの配信は一旦終了しますが、その続きは、JDFarag.org のウェブサイトでご覧いただけます。YouTube や他のプラットフォームの代わりに、真っ直ぐ JDFarag.org へ行っていただき、すべての動画の主な行き先として利用いただきたいと思っています。私たちは今後も毎週決まった時間に YouTube で、全動画をライブ配信していきますが、ただし、9時からの預言・アップデートは、イントロダクションと説明の一部のみで、結論的なものは含みません。視聴者の方、特に既に多くいらっしゃる新規登録の方が、JDFarag.org で、完全版検閲なしの「預言・アップデート」を観ることを覚えていただけるよう、このようにしています。YouTube ではなく、JDFarag.org に直接アクセスすることを覚えていただきたいと願っています。とはいえ、これからも配信は続けていきます。もう少し時間がかかることはわかっています。私たちは、皆様の忍耐にとっても感謝していますが、もっと重要なのは、私たちのためのお祈りですその具体的な祈りとは、まず、動画をダウンロードできるようになること。2つ目は、動画にクロズドキャプションがつけられること、3つ目は、動画をテレビで見られることです。実際に多くの人から、「苦情」という言葉は、聖書的でないので使いたくないので「通知」ということにします。ウェブサイトから動画をダウンロードできないとの、多くのご通知をいただきました。繰り返しになりますが、皆様の忍耐に感謝しています。私たちには素晴らしい IT チームがいます。彼らは文字通り、24時間体制でこれらの機能のすべてに取り組んでいて、すぐにでもウェブサイトにも反映させたいと思っています。しかし、その間、どうか祈ってください。皆様の祈りは、とても大切です。主の御心ならば、出来る限り多くの人に届くように、YouTube や他のソーシャルメディアのプラットフォームにも出来るだけ長く留まるのが私たちの願いです。しかし、十分に予想され、備えていることですが、万が一、アカウントが削除された場合に、主の導きにより、スムーズで途切れることなく移行できるサイトとなるよう願っています。YouTube で利用していた全動画を、ウェブサイトでも利用可能となるよう複製し、できるだけ早く、さらに良いものにするために努力しています。それが私たちの目標です。改めて、そのためのお祈りをよろしくお願いします。では、御言葉に入りましょう。今日、主が何を語りかけて下さるのか、本当に楽しみです。久しぶりに、皆さんが思っておられない方法かもしれませんが、すぐにお話しします。「テモテへの手書第二、4章1～5節」です。出来ればご起立ください。私が読みますので、ついてきてくださいご無理であれば、座ったままでけっこうです。

使徒パウロは、聖霊によってテモテに手紙を書いています。1節から、

[テモテへの手書第二、4章1～5節](#)

「神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。」 —1 節—

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」 —2 節—

「というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、」 —3 節—

「真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」 —4 節—

「けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。」 —5 節—

ご一緒に祈りましょう。

主よ、この聖句は、私たちが細心の注意を払わねばならない箇所です。しかし、そのためには聖霊が必要です。今日の御言葉に関しては特に、聖霊が私たちの注意を捕らえてくださるだけでなく、私たちの集中力を維持してくださることが必要です。主よ、私たちを導いてください。ここにあるこの節を通して、私たちのいのちに語りかけてください。主よ、間違いなく多くの人が落胆し、戦いに疲れ、ある意味では、落胆が絶望へと繋がっています。主よ、慰め主である聖霊慰めと励ましを与えてくださるよう祈ります。イエスの御名において祈ります、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。クリスチャンがこんにち、全世界で直面している困難についてお話ししたいと思います。そしてそれは、「聞きたくない方たち」についてです。彼らは聞く耳を持っていないので、聞きたくないのです。私が、この預言的な節を教え説くのは、非常に重く、傷ついた心で行うことをご理解ください。神は、私の心を知っておられます。この御言葉の中にあるもののため、それを見越し、期待しながら、祈りに多くの時間を費やしました。その理由は、この節に書かれていることが、まさにこんにち起こっていることだからです。教会の状態をより適切に説明できるものは、今の時代（終わりの時）の教会の状態以外ないのではないかと思います。さて、またしても、私は皆さんを励ましたいのですが私を見ている方の中には、自分自身を励ますことから始めた方が良くと思っておられる人もいられるでしょう。しかし私たちは、落胆したり絶望したりする必要はありません。これにはいくつかの理由がありますが、その第一は、神の御言葉の中にこのような節があることです。だからこそ、神は使徒パウロを導かれ、テモテにこの手紙を書く必要があると判断されたのです繰り返しますが、彼を備えさせ、彼をしっかりさせるためであり、そして同様に、今の私たちを備え、私たちを堅固にするためです。

「テモテ、私の息子として、信仰の息子として、私はあなたをとっても愛しています。」「これから起こることを、あなたに伝えておかなければならない。なぜなら、私は間もなくいなくなるから。」「これがこれから起こることです。あなたが、対処しなければならぬことです。あなたが直面しなければならぬことです。これだけは知っておいてほしいのです。人々が健全な教えに我慢できなくなる時代が来るからです。」「彼らは、健全な説教に我慢しません。しかしテモテよ、何が起こるかを警告してるのだから、それが来るのを知り、落胆しないでほしいのです。」「それが原因で道を踏み外さず、備えてほしいのです。」ですから、そう聖書に書かれているのです。私たちは、起こっている全てに直面しても、動じないように、必要なものを持っていますそして、こんにち起こっていることを理解するために、頭脳明晰である必要はないと思います。今日の御言葉は、激励の言葉です。そして、興味深いことに、聞く耳を持たない人々に直面したとき、動揺したり、萎縮することがないよう、私たちの決意を強めるための命令です。

そうは言っている、「もう聞きたくない！」と言う人がいるんですよね。SNSに何か投稿しようとしたら、友達解除されちゃうんですよね。彼らが、ブロックするのです。投稿に反応する前に、あなたをブロックするのです。驚かないでください。それについて話します。イエスは仰いました。

「世はあなたがたを憎むのです。」(ヨハネ 15:19 参照)

「人々が、あなたのことをほめるとき、気をつけなさい。」(ルカ 6:26 参照)

敵があなたをそっとしておく時、気をつけるべきです。実際、敵から礼状がきたり、妻に花束が送られてきたり、ギフトカードが同封されていたりした時は、本当に心配した方がいいですよ。「ありがとう、これからも頑張るね。あなたは、決して闇の王国の脅威にはならないから。」そんな時こそ心配してください。しかし、彼らは聞きたくありません。聞きたくないのを、あなたに分からせようとします。私は、それを理解していることを分かってください。気持ちは分かりますし、それがどんなものなのかは分かっています。しかし、私たちの前に、そして私たちのためにあるのは、激励の言葉なのです。私は3つを見つけました。もっとあるかもしれませんが、この3つは、私たちが直面することから私たちを守り、導きます。そして私たちはまさに今、これに直面しています。ネタばれですが、さらに悪化していきます。そのように言いたくはありませんが、言わざるを得ません。どんどん悪化します。そして、私たちが終わりの時にいるのが分かる兆候が他にもあります。最初のものが、1節と2節にあります。「そのことの故に、止めてはいけない。」まず具体的な2つの言葉に注目してください。"charge"「命令」という興味深い言葉と、"season"「時」という言葉です。まず「命令」という言葉。原語では、「宣誓の下で証言する」という意味を持ちます。「時」という言葉の原語は、「便利」という意味が込められています。それでは、これをまとめましょう。パウロがここで何を言っているかわかりますか？ これは、都合が良からうが、好まれようが、なかろうが、御言葉を延べ伝えるという宣教の誓いだと言っているのです。ああ、だから、聞きたくない人たちからの反対や反感や抵抗、傷つけるような言葉に出くわしているわけですね。皆さんはどうなさいますか？ 押し返すか、引き返すのですか？ 尻込みするのですか？ 「そんなことはしたくない...もめ事は起こしたくない」と。いいえ、そうすべきです。「波風立てたくないんだよね。」

「いいえ、やるのです。」「問題を起こしたくないから...」「いいえ、事実起こすのです。」なぜなら、これが真理だからです。お世辞を言って、地獄に落とってしまうより、怒らせてでも、天国へ導く方がいいのです。それが、やめないだけでなく、さらに突き進んで行く決意を固めるということです。パウロは、テモテに何をすべきかを伝えた後、その方法、すなわち「辛抱強く慎重に行うこと」を伝えています。言い換えれば、先週、3章の終わりで見たことですが、私たちが立つ(信仰の土台の)テーブルの4本の脚は、「教え、戒め、矯正、訓練」です。すべて愛の中の優しい精神で、非常に慎重に、祈りをもって、特に忍耐をもって行われるべきものだと言うことです。私は主に祈り尋ねました。皆さん同様、私もたぶん違わないでしょう。自分の事を例に挙げて、嫌なことを引き受けてみます。私はいつも、忍耐が与えられるよう祈ってます。私はとても短気で、辛抱が苦手だからです。皆さんはご存知ではないでしょうが、それが私自身の葛藤です。忍耐力が必要です。「牧師先生、何を言っているんですか？」私が言っているのは、あなたの人生に、聞きたくない人がいれば、あなたは彼らに忍耐しなければなりません。辛抱強く接しなければなりません。その人達に対し、心を落ち着かせられることの一つは、あなたが彼らが神の前に義とされることを望む以上に、神は彼らが義とされることを望まれているということです。それを、考えてみてください。私は、ヨハネ・マルコのことを考えます。とても興味深いです。「使徒の働き」で、パウロとバルナバの間で起こった「激しい論争」のことを覚えていますか？ それは、マルコに関することでし

た。その宣教の旅にマルコが来なかったことを、パウロはよく思っていないでした。実際、そのことが原因で、パウロとバルナバは別れました。マルコのせいで分裂し、別々の道を行ったのです。そして、何が興味深いかというと、使徒パウロが書いたこの最後の手紙の終わり、4章で、彼はヨハネ・マルコという名前を再び登場させています。今回は愛情を込めて神が聖霊によって、靈感を与えて「マルコによる福音書」を書かせた、ヨハネ・マルコがここにいます。「まさか、そのマルコは別人だ。」「いや、同人物です。」「パウロとバルナバを不仲にした男のことですか?」「そうです、その男です。」「彼が...ナニ... あいつが?まさか。」「そうなんです。」パウロは人生の終わりを迎え、投獄された地下牢で凍りつきながら処刑を待っていたのですが、それを知りながら彼は、誰に呼びかけたのでしょうか? マルコです。ほんとはですか。お~ 使徒パウロは、何年にも渡り、ヨハネ・マルコのために辛抱強く、親身になって祈り、あきらめなかったようですね。私が何を言おうとしているか、お分かりですね? あなたの人生の中にもマルコがいます。決してあきらめてはいけません。「でも、彼らは聞きたがらないのです。彼らが私に対していうことや、私について陰で言っていることを聞いてくださいよ。」陰ではもっとひどいでしょう? はい、分かっています。しかし、あきらめないでください。実際、こんな風に励ましましょう。私は実は、誰かに憤慨される方がいいです。それは、何かが起きているということですから。"犬の群れに石を投げた時、一番大きな声で吠える犬が、一番強く石にあたった犬だ"というのを聞いたことがありますか? ですね? もっといい例えがあったら後ほど教えてください。今は、これしかありません。マルコを犬と呼んでいるわけではありませんが、意味は分かっていますよ。辛抱強く、優しくパウロはテモテに、何をどうすればいいかを伝えるだけでなく、その理由も伝えているのです。1節で、パウロが、揺るぎなく、ひるむことがなく、決意を強めて、御言葉を宣べ伝えなければならないと言う、その理由は、生きている者と死んだ者を裁く主が来られるからだ、とっています。後ほど、この件に戻ります。それが「何」と「如何にして」の背後にある「理由」です。パウロは、テモテに書いています。「これが、私があなたにしてほしいことであり、してほしい方法であり、その理由です。」と。今のは最初の2節だけです。さて、もっと酷くなります。2つ目は3節と4節にあります。「そのことが故に、止めてはいけない。」ことに加えて、「それに驚いてはいけない。」のです。御言葉の中には、なぜ聖書にこのようなことが書かれているのか、という問いかけをするのが良いと思う箇所があります。主な理由の一つは、このようなことが起こった時、"もしも起こるなら"、ではなく、"必ず起こる時に"、それによって私たちが道を外したり、驚いたりしないためだと思います。実際に、起こることを見越して準備するのです。考えてみれば、事前にこの警告がなかったら、それが起こった時、どれだけ大変なことになるでしょうか。さらに一歩進んで、これがここにあるのは、私たちが驚かないためだけではなく、携挙前の最後の時の預言的なしるしとしても、ここに記してあるのだと提案させていただきます。この点で、私が最も驚くべき対照的なものは何だと思うか、と問われれば、私の答えは、終わりの時のフィラデルフィアにある教会とラオデケキアの"教会"の"教会"の"教会"、という理由を、説明します。7つの教会がありますね。これらは文字通り教会です。イエスは、パトモス島にいたヨハネに、7通の手紙を書かせました。それは当時、小アジアとして知られ、実在した7つの教会に送られたもので、多くの人が、西暦95年頃と考えています。現代のトルコとして知られています。トルコでは、実際にこれらの都市の遺跡を見学することができます。私は、特に今の時点では、そこに旅行することは勧めませんが、7つの教会のうち、イエスからの叱責がなかったのは2つだけでした。実際には、叱責の代わりに、励まし、激励の言葉がありました。「忍耐しなさい。もうそんなに長くはないから。」と。その2つの教会は、私たちが親しみを込

めて”迫害された教会”と呼ぶスミルナの教会と、フィラデルフィアの教会です。再び親しみを込めて”Remnant/少数の教会”と呼んでいます。フィラデルフィアの教会の次に、7番目の教会があり、それが最後の教会で、7は完全数です。そして、それが、ラオデキアにあるこの教会ですそして、とても興味深いのは、ヨハネがこれらの手紙を書くように言われた時、最初の6通でヨハネはこう書いています”エペソにある教会の天使に”、”スミルナにある教会の”、”サルデスにある”、”テアテラにある””ペルガモにある”、”フィラデルフィアにある”、と書き、しかし、その後、ラオデキアになると、”ラオデキアにある教会”とは言いません。「ラオデキア”の”教会に手紙を書き送れ」と仰いました。なぜでしょうか。なぜなら、それはもはや私（イエス）の教会ではないからです。ここは、イエスが外に立って、扉をノックして中に入ろうとされている教会です。「私はこの教会の中にはいない。」と。ところで、名前はその本質を表します。注目して下さい。私はこれから重要なことを言おうとしています。名はその本質を表しますラオデキア (Laodicea) とは、英語では「laity (俗人) と diocese (教区) または「laity (俗人) と decide (決定する)」という2つの単語を組み合わせたものです。俗人たちが主導権を握っていたのです。主は、もはや関わっておられませんでした。主は、もはや教会の中にさえおらず、教会を統制されていませんでした。彼らがイエスの座にいたのです。だからこそ、「ラオデキア”の”教会に手紙を書き送れ」と仰ったのです。フィラデルフィアにある教会とラオデキアの教会との対比は、控えめに言っても際立っており、その理由はこれです。フィラデルフィアにある教会に対して、イエスはヨハネに、こう書かせられます。

#### 黙示録3章8～10節、

「わたしは、あなたの行いを知っている。」

「見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、私はあなたがたが、糸一本にしがみついているのを知っています。わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

ここから推測できることは何でしょうか？ これが暗示することは、御言葉を守らず、御名を否定し、もはや御言葉を宣べ伝えていない人がいた、ということです。そして、こう仰っています。

「あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。」(黙示録 3:10)

”試練とは、7年の患難のことで、”地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている試練”のことです。私たちはこれを、他の多くの箇所と同様に、大患難前携挙の証拠となる聖句として参照します。真の教会は、7年の患難時代に、この世にはいません。全世界を襲う苦難の時から、私たちは守られるのです。さて、ラオデキア”の”教会についてお話ししましょう。イエスはヨハネに、黙示録3章19～20節でこう書かせておられます。

「わたしは愛する者をみな、叱ったり、懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外にたたいてたたいている。だれでも、わたしの声を”聞いて”(キーワード)戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

この箇所を、伝道的な箇所として使われている方が大勢おられるのは自覚しています。私自身も使ったことがあります「さあ、主はあなたの心の扉をノックしており、中に入りたくて願っておられます。」と。それは良いのです。しかし、これは教会であり、クリスチャン達への、悔い改めなさいという、明確な呼びかけです。ここは、生ぬるい教会でした。イエスは、彼らに、「熱いか冷たいか、どちらかであって欲しい。」と仰ったばかりです。「その方が断然良い。なぜならあなた方は生ぬるいので、わたしの口から吐

き出してしまいたい。あなた方にはうんざりだ。」それが、原語で言われていることです。かなり露骨で、生々しい表現なのです。そうである必要があります。そうでなければなりません。興味深いのは、ラオデキアという都市は、使徒の働きで言及されている別の都市、ヒエラポリスの近くにありました。そして、ラオデキアについて本当に興味深いのは、ここは超裕福な都市だったことです。実際、それはその地域で知られている世界の銀行の中心地でした。彼らは非常にお金を持っていたので、リゾートやスパを持つことができるよう、ラオデキアへヒエラポリスから天然温泉を引こうと精巧なシステムを構築することを決めたほどでした皆さん、オンラインで検索することができます。それは美しく、息をのむほどの都市です。ヒエラポリスの天然温泉、ああ素晴らしい「ラオデキアの私たちは買う余裕があるのだから、やろうぜ〜！」という感じです。そこで、彼らはこの精巧なシステムを構築しました。しかしこれが問題です。ヒエラポリスの温泉が、ラオデキアに着く頃には、もう熱くなくなっていました。生ぬるいのです。私は、神がそうなさるのが大好きです。彼らは要点を得ました。”生ぬるい”のです。”生ぬるい”ことに関して、彼らはよく知っていますね。のどが渇いている時、ぬるま湯を一杯飲んでみてはいかがでしょうか。寒い時はどうでしょうか？ 熱い方がいいですね？ 暑いときは、冷たい方がいいですよ？ 誰かがあなたに、生ぬるいのを渡すと、「おえ〜」と（吐き出す）失礼しました。無料のバプテスマを皆さんへ、それが、彼の言っていることです冷たいか熱いかであってほしいけれど、あなたは生ぬるい。（黙示録 3:15-16 参照）ですから悔い改める必要があるのです「熱心になって悔い改めなさい。」（黙示録 3:19）ラオデキアの危機はここにあります。「私は戸の外に立ってたたいている。」（黙示録 3:20）しかし、私はこの戸を叩き続けられない時が来るでしょう。それが今です。「聞く耳を持っているなら、戸を開けなさい。今すぐ。」そして 22 節では、彼はすべての手紙の終わり方とまさに同じ方法で手紙を締めくくられます。「耳のある者は...」そこで止めます。待ってください。それは修辭的ですね？ はい。「耳のある者は...」何人おられますか？ 挙手お願いします。うわあー。手を挙げなかった人もいますね。まあいいでしょう。それはあなたと主との間のことです。皆さん、お持ちなのは耳一つではありません。二つお持ちです。そして、皆さんが持っていないものがあります。奇妙に聞こえないのを願いますが、事実です。皆さん、耳蓋はありません。皆さんに少しお時間を差し上げます。大変深遠だと思いますので。皆さん、それに気づかれたことがありますか？ 聞かないための耳蓋は必要ありません。誰かがあなたに話しかけてきても、あなたは彼らが言っていることを聞いていないことがありますね。子供の頃を覚えています。母は強い訛りで、こんな高オクターブを響かせていました。こんな感じです。「ワヒド〜〜〜！！」母がそう言った途端、それが C シャープ# か何だったか分かりませんが、それ以外、他には何も聞こえませんでした。私に耳はありましたが、他に何も聞こえなかったのです。聞こえたのは... 「ワヒド〜〜〜！」ラ・ラ・ラ〜〜〜でした。-(笑)- 私たちは、主に対して同じことをしていると思います。私たちは聞かないのです。聞こえてはいますが、実際には聞いていないのです。あなたが誰かと会話していて、あなたの思考が完全に他の事を考えているときがありますね。しかしあなたは失礼がないように、丁寧に接します。彼らはどんどん話を続けます。あなたは適当に、「ああ、へえ、そうなの？」と相槌を打ちます。そして、それが彼らにバレます。質問されているのに、「そうなの？」「ああ、ごめん。何て言ったの？」「聞いてなかったでしょ？」「聞いてなかった。」「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。」（黙示録 3:22）これが何を意味するかご存知ですね？ 聖霊（御霊）が教会に言いたいことがあられるのです。問題は、聖霊は話しておられるのか？ではなく、問題は、私がそれを聞いているのか？です。はい、私には耳がありますが、”私が、それを聞いているのか？”です。私は、フィラ

デルフィアは、御霊の言葉を聞く耳を持っていたと言わせていただきますしかし、ラオデキアは、耳が痒くて、言われたことだけを聞く耳を持っていたのです。こう言った方が良いと思います。"一方は、御霊が教会に言うことを聞く耳があったのに対し、他方は、教会で聞きたいことを聞くだけの耳しかなかった。"敢えて言わせてもらおうと、皆さん、これらを見つけるために、非常に懸命に探したり、わざわざ遠方へ行く必要はありません。繰り返しになりますが、私は心が傷ついているので、この一節を教えたり説いたりすることに喜びを感じません。また、牧師としての戒めでもあります。「主よ、嫌です。と言ったことがあると告白しないと、私は不誠実で、もっと言えば不正直になってしまいます。順番に書物ごと、章ごと、節ごとに教えるとき、何を説教するか、選ぶことはできません。ですから、どの聖句を教えるか分かったら、「うーん、その日は体調を崩しそうだ。」となります。惜しいですねマック副牧師に補ってもらえることはできますが、次の週があるのです。どうしましょう？サボりますか？「主よ、私がこれを説教すれば、彼らは戻って来ないでしょう。」これに対し、主はこう答えられます。「そうですか。あなたはそのため説教しているのですか？」「彼らに対してあなたは説教しているのですか？」「彼らが怒って羽を立てないように説教しないといけないと言っているのですか？（そんな例えを使わせていただきます。）彼らに戻ってきて欲しいからですか？」人から好かれない牧師などいますか？ 私は皆さんに嫌われたくありません皆さんに私を好きになってほしいです。皆さん、私が好きですよ？ 共有したことがあったと思いますが、はっきり覚えていませんが、私がここで説教し、教えていると、誰かが立ち上がって外に出て行くのです。私がこんなこと言った後では、どなたもそうなさいませんか？そして、ここで敵がこう言います。「ああ、あなたが言ったことが原因だ。」繰り返しますが、私がこう思わなかったなら、不誠実で、最悪不正直になります。「ああ、彼らは出て行った。言い方が悪かったのかもしれない。」そして主が、「本当ですか？」「彼らにとって都合の良い言い方で言わなければならないのですか？」ところで、それをされている人がいます。そのため、膨大な数の人々が教会に群がっています。自分の教会に人々が集まることを好まない牧師なんていません。繰り返しますが、私は皆さんにオープンに話しています。皆さんが、不快に感じないことを願います。しかし私は誰の、下でもなく上でもありません。私は確かにそれを行えます。私は一節を見ていて、考え、主にこう言います。「主よ、ふ～、私はエレミヤのように感じます。」エレミヤをご存知ですか？ 涙の（泣き虫）預言者。です。そして、主は彼にこう仰いました。「私はあなたに、この言葉を授けます。あなたが預言しても、誰も反応しないでしょう。」

「誰一人も反応しないでしょう。さあ行きなさい。」そしてエレミヤは言います。「いいえ、私は行きたくありません。」「いいえ、あなたは行くのです。」そして、彼はそうしました。いつも驚かされることがあります。第一礼拝の後、誰かと話したのですが、私はいつも、ヨナとエレミヤの対比に驚かされます。そして、いつも聞かれる質問があります。「講演に、誰に来て話して欲しいですか？」待ってください。ここにエレミヤがいます。彼のミニストリーで救われた人は一人もいませんでした。一人もいません。そして、ここにヨナがいます。彼の場合、街全体が救われました。皆さん、誰に来てもらいますか？ ああ、ところでニネベが、悔い改めた時、ヨナが神に本気で怒っていたのは恐らくご存知ですね。実際のところ、彼は希望など広めませんでした。事実こんな感じでした「ヨナ記」を見直してみてください。分かりますから。こんな感じですよ考えてみてください。彼は、クジラ級の大きな魚の腹から、海岸に吐き出されたところです。魚の胃酸で、彼は真っ白に漂白されています彼の皮膚の色、髪の色 一髪の毛があれば 一 は、真っ白になっていて、彼はこう言います。「悔い改めなさい！それだけです。基本的に、彼が言ったのは、「あと40日すれば、神がこの都（ニネベ）は滅ぼされる。私は山の上からそれを見るのが、

待ちきれない！！「あなたがたは滅ぼされるのだ！！」それが基本的に彼が告げたことでした。すると、彼らは悔い改めたのです。気になる方は、その文脈を考えてみてください。イスラム教の国、イラクやシリアを考えてみてください皆さんが、ISIS のところへ行き、言うのです。「あと 40 日で、神があなたがたを滅ぼされます。そして私はそれを最前列席で見るとのことです。そして彼らが悔い改めます。それはまるで「……………」でしょう？ 良かった。皆さん笑ってくださって。要点は分かりますね？ 因みに彼らが悔い改めた理由は、彼らが、偽の神、半人半魚を信じ崇拝していたからです。ペリシテ人の崇拝した神は、ダゴンです。彼らは奪い取った契約の箱を、ダゴンの神殿置きました。翌朝、彼らが見に来ると、ダゴン像が契約の箱の前に、顔を地につけて倒れていたのです。彼らはそれを元に戻すため超接着剤を使用する必要がありました。神を元に戻さなければならないのは問題ですね。Dagon/Dag on it =大バカ者です。そこから名前が由来したわけではありませんが、これを話す理由は、神はいつも適切な方法で人の心に語りかけられるからです。考えてみてください。人が魚から飛び出してきました。そしてあなたが半人半魚を崇拝していたら？ 私なら悔い改めます。その場でそうします。何にも言う必要はありません。人が魚から飛び出してきました。私たちは、魚の神を崇拝しています。半人半魚です。「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。」(黙示録 3:22) これは、聖霊からだだと思います。最後の 5 節にあることを話させてください。これは重要です。「驚いてはいけません。そのためにやめてはいけません。正気を失わないようにしなさい。」それが、基本的にこの 5 節でパウロがテモテに話していることです「けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。」(5 節) これは彼が大変忙しいことを示唆しています。私がそれを証言できます。興味深いのは、パウロがこれを言う方法とその順番です。理由を説明します。そうすることで、彼は実際に、もし来たら、ではなく、それが来た時に、私たちが挫折せず、正気を保てる方法を説明しています。これが私の考えで、その後締めくくります。御国のための魂を勝ち取ること、そして神のことで忙しくしていると、必要とする忍耐力と感情的な安定が比例してセットで来ます。繰り返しますが、私はこのことを個人的な経験を持って証明できます。2019 年、私は個人的に大変葛藤していました。他の教会がしていること、していないことを見ていました。多分そのように言う方が良いと思います。非常にがっかりしました。多くの方々から、コメントや投稿、メールがオフィスに来て、彼らのエリアで、聖書預言を教えている教会があるかどうか、教えて欲しいと懇願されても何もできませんでした。それは大変心が痛みました。なぜなら、ないからです。今以上に、それが重要な時はないと思うのです。そう思われませんか？ つまり、私が今ここに立っているときも、ご覧になっている多くのオンラインの方が来月の家賃をどうするのか、ましてやこの状況がゆえに、冷蔵庫に食べ物さえない方がおられるのを痛感しています。そして、説教壇に立ちながら、何も話さない牧師がいるのです。彼らは御言葉を説いていません。ああ、彼らはそれに関する説教はします。あちこちを参照します。最初は、聖書を手にしているかもしれませんが、決してそれを開くことはありません。繰り返しますが、私は皆さんに率直にお話ししています。私は本当に葛藤し、そのことで主の下へ行かなければなりませんでした。私にとっては詩篇 73 篇のようなものでした。詩人が邪悪な者の繁栄を見ているので、躓きそうになっていると自覚している箇所です。

**「ただ空しく 私は自分の心を清手を洗って 自分を汚れなしとした。」(詩篇 73:13)**

彼は信仰の危機に陥っているので、誰とも話そうとしません。なぜなら、自分の葛藤が知られると、彼は人々をつまづかせてしまうと恐れているからです。つまり、私は何のためにこれを行っているのか？ これらの人々は、15 分程度の、”文字通り、何千人ものクリスチャンっぽい人のための、説教っぽい話”

のために教会に行くのです。お聞きください。必ずしも今の話ではありませんが、旧館でのことを覚えているのですが、木の会衆席には誰もいません。私が説教をしても、エコーが響くだけでした。木の会衆席から跳ね返ります。「では祈りましょう。」祈りましょう...祈りましょう...祈りましょう...一方、あちらの別の教会では、人々が行くのを見ていました。「主よ、本当ですか？多分私もそうすべきなのですね。」

「そんなことを考える事さえいけません。御言葉を宣べ伝えなさい。」「でも今の時代は短く、サッと、注意をひくものが必要で、何でもかんでも音楽でまとめて、最悪でも、流行でかっこいいものでなければならぬのでは？ 人を留めておくために。」スキニージーンズにラテを持った方がいいのでしょうか。分かりませんが。皆さんにお約束しますが、私は決してそういうことはしません。一度見たら決して忘れることができずから。でも私は混乱しました。本当に。そして、ここでパウロがテモテに言っているのは、「気を引き締めなさい。」「主よ、正気を失いそうです。」「いいえ。気を引き締めなさい。」「神のことで忙しくしなさい。もう時間がないのです。それがあなたと何の関わりがありますか。」「でも主よ。不公平です！」「公平であるべきだと誰が言いましたか？」息子たちが幼いころに、あることを教えるために、歌を作りました。教えるのに最適な時というのがありますね。♪世界はあなた中心ではなく、人生は公平ではない♪さあ、皆さんと一緒に～ 彼らは理解しました。いまだに持ち出されます。トラウマになって、人生の傷になって、でも事実ですね世界はあなたが中心ではなく、人生は不公平なのです。私たちは腐敗した世にいますから。「あなたは、私に目を向けていなさい。」「あなたは、仕事に戻りなさい。」因みに奴隷はやめることができません。幾度となく、この教会を始めた時、泣いてしまうので、これ以上は言わないでおきます。しかし幾度となく、「ああ。主よ。」「大変困難です。」ここに要点があります。あなたが忙しければ忙しいほど、人は何をしているのか考える時間が減ります。あなたが伝道で、魂を勝ち取るために、神の御国に邁進し、神のことで忙しいなら、パウロが書いている通り、

**「御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。」(ガラテア 5:16)**  
御霊のことで忙しいなら、肉のための時間はありません。御霊で満たされているなら、肉への欲求で満たされることはないでしょう。最高の例えは、もちろん食べ物ですね。いつもそれが最高です。ディナーに招待され、途中で“タコベル”に立ち寄り、タコスの12パックを2つ買うとします。もしかしたら、そのうちの1つは、バラエティパックにします。私はそれらを食べて、あなたの家に現れます。あなたは素晴らしい料理を用意してくださっています。ジャンクフードで満腹の私は、どれくらい空腹でしょうか。もう食べられません。御霊の料理をあなたが用意してくれたのに、肉の欲望でお腹がいっぱいなのです。それは両面作用します。御霊で満たされると、肉への欲求がありません。御霊で忙しくしていると、肉のための時間はありませんあなたが、御国へ魂を勝ち取ることに忙しくし、神と御国の事で忙しくしていると、忍耐が生まれます。イエスの携挙でのまもなくの来臨を考えると、繰り返しになりますが、それが背後にある理由なのです。イエスの来臨と神の御国に目を向け、その意欲というタンクを真に充満させるのです。生きている者と死んだ者を裁かれる主のことを考え、自分自身を比較するのを止めるのです。

「彼らを見るのを止め、彼らから目を離し、私だけに目を向けなさい。」「説教に留まり、御言葉を宣べ伝えなさい。伝道に専念するのです。」「私はあなたが忙しいのは分かっています。その忙しさを分担しなさい。」「あなたは、神のことで本当に忙しくしています。他の人にも委ねるのです。」それがパウロがテモテに言っている事なのです。こういう風に締めくくらせてください。私は、「締めくくります。」と言いましたか？ 言いましたね。「最後に」はまだ言っていませんよね？ では最後に、先ほど話した、私たちの人生のヨハネ・マルコについてです。このことを踏まえて、根気よく、彼らを諦めず、彼らの故に立ち

止まらないでください。彼らが故に、正気を失うことなく、冷静になり、取り乱さないでください。それは、私自身の事です。驚いてはいけません。これらによってさらに決意を強め、いと高き召しへの報酬に邁進するためのモチベーションのタンクを補充させるのです。最後にその理由は、主が来ようとされているからです。もうそんなに長くはかかりません。これを待ち望んでいると、何があっても、それを乗り越えるのが楽になります。もうそんなに長くはありません。持ちこたえるのです。「私は、あなたには少しばかりの力があるのを、かろうじて持ちこたえているのを知っています。しかし、私はすぐに来ます。あなたは、忍耐についてのわたしのことばを守ったので全世界に来ようとしている試練（患難時代）の時には、わたしもあなたを守る。」（黙示録3：8～10参照）ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様、あなたの御言葉に感謝します。もちろん私たちは、聖霊（御霊）があなたの教会である私たちに語っておられることを聞く耳を持つ者として、数えられることを願っています。主よ。私たちは決してラオデキアの教会のように自分たちが聞きたいことだけを聞く耳をもつ者だと言われたくありません。あなたが仰っていることを聞く耳のある物と言われたいのです。あなたの仰りたいことではなく、もう既に仰っておられることを。私たちはそれを聞き、心に留めたいのです。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7